慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	投資戦略のDSSとキャッシュフロー分析 - 発生基準会計とキャッシュフロー会計との関連 -
Sub Title	
Author	高橋克行(Takahashi, Katsuyuki) 伏見多美雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1988
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1988年度経営学 第617号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001988-0617

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 0617

学生氏名　高橋克行　（エッソ石油株式会社）

所属ゼミナール　伏見多美雄研

主査　伏見多美雄

副査　柳原一夫

柴田典男

投資戦略のDSSとキャッシュフロー分析
― 発生基準会計とキャッシュフロー会計との関連 ―

投資戦略の経済的な評価としては、従来キャッシュフロー分析が一般的であるが、そこで扱われるキャッシュフロー表は財務会計の分野で扱われる損益計算書や貸借対照表とは切り離して考えられてきた。しかし、本来キャッシュフロー表は両者の連結環の役割をするものであり、これら三者は一体となって企業の経済活動の結果を示すものである。本論文ではこの点に着目し、戦略サポートの視点から、投資戦略評価指標として適切なキャッシュフロー表と財務会計情報としての損益計算書、貸借対照表を一覧できるような会計情報モデルを作成した。

論文の構成としては、まず理論編として、企業外部のアナリストへの情報としての損益計算書、貸借対照表の２つの会計報告書と、企業内部の経営陣、及び投資戦略策定者への情報としてのキャッシュフロー表との関連を明確にした。そうして、投資戦略評価の為のキャッシュフロー表としてはどういうものがふさわしいのかを、発生基準とキャッシュフロー基準の違いに焦点を当てながら理論的解明を加えた。

次に、理論編でみてきたことの妥当性と役立ちについてみるために、実践編で、１社１事業部の場合と比べて独得の曖昧さと難しさのある、複数の事業部を持つモデル企業を設定し、事業部、本社、全社の各段階の損益計算書、貸借対照表とそれらをつなぐキャッシュフロー表が投資戦略の影響の及ぶ年数にわたってどの様に変化するかをみた。具体的には、各事業部の持つ投資戦略代替案の中から最適な戦略ミックスを採択するという一種の戦略ポートフォリオの考え方を通して、DSS（意思決定支援システム）モデルの為の会計情報モデルを整理し、解説を加える手法をとった。つまりこの実践編で、このモデルを使うことによるメリット、即ち、簡単な投資戦略であれば、いくつかの政策変数、予測変数、パラメータをインプットすれば、キャッシュフロー基準に基づくキャッシュフロー表と外部アナリスト向けの資料としての発生基準に基づく損益計算書及び貸借対照表が、投資の影響の及ぶ年数にわたって各段階ごとに同時にアウトプットできることにより、投資戦略の各部門への影響が浮き彫りにされ、意思決定がよりスムーズに行えるようになるということが実証されるわけである。